

考古かながわ

第11号

1996年9月1日

中国漫歩（一）

前本会副会長

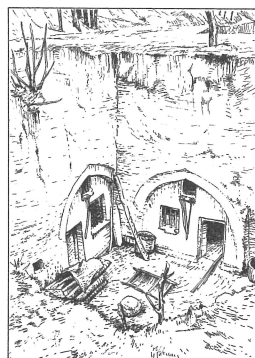
小出義治

この五月に思わぬ話がとんとん拍子に実って、茨城大学の茂木教授が率いる日中連合唐靖陵墳丘測量調査団の顧問ということで、尻馬に乗せてもらい、中国入りをした。今回の中国行きの思惑には靖陵（僖宗皇帝の陵墓）の見学もさることながら、調査後の数日を発掘中の壁画古墳を始め、西安周辺の普通では見られない遺跡を陝西省考古研究所で案内してくれるということへの期待があった。いま一つ、かって乾陵を見学した際に、見事な石人・石馬に見られながら歩いていて、ふと気付いた足元の深い地下穴の底にみた穴居住宅への好奇心が再び甦ってきたからである。それは靖陵の所在が同じ乾県の南陵村という村なので、穴居住居見学の機会が十二分にあるとみたからである。

乾県の田舎町唯一のホテル（乾陵大酒店）から通うことになった南陵村には勿論レストランなどはなく、村長さん宅で昼食の世話をしてもらうことになったが、驚いたことに思惑が見事に的中し、村外れにある小学校と会社の倉庫を除いては民家の殆どが穴居住宅であった。

今回はこの穴居の現状についてお話ししよう。台地の端を巻いて下る村道に面して山側にならんで造られた家は、先づ山側に10m四方ほどをコの字形に掘り取って中庭を作り、庭に面してできた高さ7~8mほどの三方の崖面に各辺二部屋ほどを掘り込む。天井はアーチ型で、隣室との間仕切りを残して間口、

奥行ともに4m程度、高さ3mほどが大凡の一部屋の広さである。中庭側の掘り抜いた部分には窓や戸扉の木枠を取り付け、空間部分は版築して土壁を作り、各部屋を完成させる。寝室となる部屋は更に内部をスサ入りの壁土、次いでシックイを順次上塗りして仕上げる。室内は約1/3が高床張りで、間仕切りはなく、オンドル式になっている。120cmほどの高い床上には厚織りの敷物が敷かれ、寝具は畳んで壁に沿って置かれている。おそらく別に家具、衣類などを保管する部屋があるのであろう。土間にも小さなテーブル一つと戸口の脇にポットと茶道具を載せた台、対面の奥壁側に小物入れの引出しを付けた家具一脚、その上方の白壁に大きく天帝・福祿寿等々道教の神々を描いた図が貼られ、脇に並んで「福祿寿」と大書した軸が懸けられている他には一切物を置かず、簡素、清潔な感じの室内であった。また、対照的に石炭を燃料とし、油煙で黒づんだ化粧塗りのない厨房、雨水を大切に使うという大きな甕等々、そこには降雨量が少ないレスの地帯という自然条件を最大に活かした合理的な住居と、また生活慣習の中に道教が根強く息付いている姿をみる事ができた。



三上次男先生と神奈川県

青山学院大学名誉教授 吉田章一郎

三上先生は丹後の宮津（京都府）のお生れで、青山学院中等部から浦和高校（旧制）を経て、東大文学部東洋史学科に進まれ、池内宏教授の許で、東北アジア地方の歴史学、考古学を専攻され、卒業後は外務省の留学生として中国に行かれ、帰国後は文学部の講師となられた。昭和24年には東大教養学部の教授の任につかれ、昭和42年定年で退官された。後、青山学院大学文学部教授として、同学部史学科の創設に中心として力を尽くされた。

戦前、先生の東北アジア関係の講義を受講した筆者が、シベリアから帰国してお会いした頃（昭和24年）には先生の研究の方向が陶磁器の方に向けられているのに驚いたのであるが、当時、先生に親しかった方々が、先生は戦前の東北アジア各地の調査の頃から、その地方で出土する中国陶磁器に非常に興味を持たれていたといわれたり、先生が鎌倉出土の中国陶磁器の事について、よくお話になるのを聞いているうちに、成程なと納得がいくようになった。

先生は永く鎌倉に住まわれていた関係で、鎌倉市、神奈川県、横浜市などの文化財審議会の委員などをお勤めになられた。特に昭和46年から56年迄、鎌倉市文化財総合調査団団長を勤められ、更に昭和55年には鎌倉考古学研究所の顧問になられ、鎌倉市の文化財の調査、保護に中心的な役割を果された。その関係で、海外から来日された陶磁器研究者の多くが鎌倉を訪ねて先生とお話されたと聞いている。

先生は陶磁器の研究には、物自体をみる事が基本であるが、その生産、流通の面を考古学的に研究することも重要で、それを忘れてはならないという事を始終言われていた。筆者が相伴して調査した佐賀県有田（天狗谷古窯址、山辺田古窯址など）では、日本に於ける磁器発祥の問題を窯址の発掘調査の面から追及され、愛知県渥美半島（大アラコ古窯址）

では神奈川県川崎市の白山古墳から出土した「秋草の壺」（国宝）を焼いたと思われる窯を発見、調査され、従来、常滑のものといわれていたものが、渥美産である事を明らかにされた。いずれも日本陶磁史研究の上では重要な事であった。

この様なお考えが、日本全国は勿論の事、中国へ、更には東南アジアから遠くエジプト、トルコへと「陶磁の道」を追及されていった原点であったと思われる。

神奈川県には陶磁器や瓦を焼いた窯は少ない。その窯址の一つに、松田町の「からさわ古窯址群」がある。昭和44年に、先生は、赤星直忠先生と、これを発掘されている。そしてこの窯の瓦が、小田原市千代廃寺で使われている事を確認されたのである。この窯は昭和60年、東名高速道路の拡幅に伴い、撤去される事になり、再調査され、現在は同町の最明寺跡公園に移築、保存されている。

この外、先生は、窯址関係ではないが、神奈川県横穴墓研究の上では逸する事の出来ないと思われる、二宮町の諏訪脇横穴墓群の調査を赤星先生と一緒にされた事を付け加えておきたい。



昭和55年、中国の窯址を訪ねた時、河北省、石家荘驛にて。
中央、三上先生、右へ佐久間教授、宇都木教授（青山学院大学）
左へ檜崎教授（名古屋大学）、筆者

平成8年度神奈川県考古学総会報告

平成8年度総会が横浜市開港記念会館で、平成8年5月11日(土)13時から開催されました。

開催に先立ち、寺田兼方副会長からあいさつの後、議長に寺田副会長が選ばれ、議事に入った。議事の内容は以下のとおりである。

議事1 平成7年度事業報告

- 1 第19回遺跡調査・研究発表会は平成7年9月23日(土)川崎市中原市民館で、約400名の会員の参加を得て開催されました。なお、神奈川県立旭高等学校教諭上本進二氏による『地震考古学』の特別公演があった。
- 2 研究誌『考古論叢 神奈河』第4集を99頁、700部を刊行
- 3 連絡誌『考古かながわ』9号、8頁、700部を刊行
- 4 考古学講座『かながわの縄文文化の起源を探る』平成8年3月3日(日)神奈川県政総合センターで開催、各地域の事例と、石材、植生をとりあげて論議した。参加人員260名、A4版52頁、700部刊行
- 5 遺跡見学会
 - ① 平成7年7月22日(土)中・近世の居館跡である大和市神明若宮遺跡を見学した。60名。
 - ② 平成8年3月17日(日)中・近世の小田原城跡の見学を行なった。参加人員20名。

- 6 会員名簿の作成 B5版20頁、700部を印刷し、平成8年3月31日刊行した。

- 7 役員会の開催 平成7年5月27日、7月6日、12月12日、8年1月29日、3月26日県立埋蔵文化センターならびに神奈川県総合センターで開催された。

議事2 平成7年度収支決算報告

- 4頁に記載した。決算報告を監査した伊東秀吉、金子皓彦は金銭出納簿、証拠書類を精査し、預金残高と照合した結果、誤りがないことを確認しました。

議事3 平成8年度事業計画案について

- 1 第20回神奈川県遺跡調査・研究発表会は平成8年9月23日(月)〔秋分の日〕茅ヶ崎市文化会館で開催する。内容は特別講演1本と昨年度調査した主要な11遺跡を発表予定(詳細は本誌6頁参照)
- 2 研究誌『考古論叢 神奈河』第6集の編集、B5版100頁、発行は平成9年4月
- 3 連絡誌『考古かながわ』の刊行11号は9月、12号は平成9年3月下旬
掲載内容は遺跡調査研究発表会の内容、総会、遺跡見学会、人物史伝、会員の声、かながわ再発見、事務連絡等
- 4 考古学講座の開催『弥生時代後期の環濠集落』開催日時は平成9年2月頃、開催場所は未定。
- 5 遺跡見学会
調査中の遺跡、史跡、資料館の見学、
 - ① 平成8年7月土曜日横浜市歴史博物館
 - ② 相模原方面平成8年12月頃予定
- 6 その他

会員から考古学博物館の設立の要望があった。

総会終了後、青山学院大学名誉教授吉田章一郎先生より『窯跡を訪ねて』の講演がスライドを交えて行なわれた。



神奈川県考古学会平成7年度決算報告

(収 入)

(単位：円)

節	予 算 額	決 算 額	比較増減△	説 明
会 費	1,452,000	1,239,000	△213,000	7年度会費 3,000×329=987,000 当該年度外 3,000×84=252,000
機関誌 等売上	1,448,000	1,403,810	44,190	「発表要旨」売上 会 員 1,000×6=6,000 1,200×119=142,800 会員外 1,200×5=6,000 1,300×4=5,200 1,500×140=210,000 委託販売 12,000 「考古論叢」売上 会 員 1,800×114=205,200 会員外 2,300×17=39,100 2,500×88=220,000 委託販売 240,160 「考古かながわ」売上 200×4=800 「講座要旨」売上 会 員 700×72=50,400 800×85=68,000 会員外 1,000×141=141,000 委託販売 57,150
				会場整理費 5,500
				預金利子 4,660
				寄付金 38,124
				送料収入 550
雑収入	1,053	48,834	47,781	
繰越金	934,947	934,947	0	
合 計	3,836,000	3,626,591	△209,409	

(支 出)

(単位：円)

節	予 算 額	決 算 額	比較増減△	説 明
会議費	130,000	74,423	△55,577	会議資料代 5,140 会議費 16,383 会場借上 12,900 講師謝礼 40,000
会 誌 発 行	1,310,000	1,224,780	△85,220	考古論叢神奈河4印刷 1,000,000 考古かながわ9・10印刷 107,120 発送・連絡費 112,660 考古論叢翻訳謝礼 5,000
普 及 啓 発	335,000	328,009	△6,991	講師謝礼 1,545 会場借上 23,640 会議費 15,750 資料印刷代 183,094 発行・連絡代 93,980 保険料 10,000
発表会	820,000	437,224	△382,776	発表要旨印刷代 320,000 会場借上 37,200 講師謝礼 40,000 設営代 40,000
事 務 局 費	600,000	450,243	△149,757	賃 金 240,000 名簿印刷代 100,000 通信代 69,140 消耗品代 31,378 雑 費 9,725
予備費	641,000	0	△641,000	
合 計	3,836,000	2,514,679	△1,321,321	

歳入、歳出計

平成7年度収入 3,626,591

平成7年度支出 2,514,679

執行残高 1,111,912
(次年度へ繰越)

会計監査報告

平成7年度の収支決算について、金銭出納簿、証拠書類を精査し、預金残高と照合した結果、誤りなく適正に処理されていることを確認しました。

平成8年4月28日

監事 伊東秀吉
監事 金子皓彦

神奈川県考古学会平成8年度予算

(収 入)

(単位：円)

節	予 算 額	前年度予算額	比較増減	説 明
会 費	1,395,000	1,452,000	△57,000	8年度会費 3,000×465=1,395,000
機関誌 等売上	1,445,000	1,448,000	△3,000	発表要旨売上 会 員 1,200×200=240,000 会員外 1,500×230=345,000 考古論叢5 会 員 1,800×200=360,000 会員外 2,500×150=375,000 考古かながわ 一 般 200×10=2,000 考古学講座要旨 700×50=35,000 考古学講座記録集 800×110=88,000
繰越金	1,111,912	934,947	176,965	
雑収入	8,088	1,053	7,035	
合 計	3,960,000	3,836,000	124,000	

(支 出)

(単位：円)

節	予 算 額	前年度予算額	比較増減	説 明
会議費	130,000	130,000	0	会議資料代 10,000 会議費 60,000 会場借上 20,000 講師謝礼 40,000
会 誌 発 行	1,310,000	1,310,000	0	考古論叢神奈河5印刷 1,000,000 考古かながわ11・12印刷代 170,000 原稿謝礼 10,000 発送・連絡費 130,000
普 及 啓 発	575,000	335,000	240,000	講師謝礼 120,000 会場借上 20,000 会議費 20,000 資料印刷代 160,000 発送連絡代 35,000 考古学講座記録集(平成7年度) 200,000 保険料 20,000
発表会	850,000	820,000	30,000	発表要旨印刷代 600,000 会場借上 60,000 講師謝礼 40,000 設営代 150,000
事 務 局 費	600,000	600,000	0	賃 金 200,000 消耗品代 70,000 通信代 120,000 その他
予備費	495,000	641,000	△146,000	
合 計	3,960,000	3,836,000	124,000	

会員の広場

—会員の声にお答えします—

前号（第10号）では、はじめて「会員の広場」コーナーをもうけ、会員8名の声を掲載させて頂きました。これらの声に対して、5月19日の総会の場で寺田副会長からコメントがありましたが、あらためて事務局からも2、3の項目に分けて、お答えさせて頂きます。

◆神奈川県考古学会は、考古学をこれから学びたい、発掘をしてみたい、という希望から入会された方が大勢おられるのが特徴であります。そうした方々のリクエストを大切に、応えていくため、著名な史跡や発掘現場めぐり、入門的意味を込めた考古学講座、あるいは本誌のような連絡誌などを発行してきました。

ただ、いつも自戒していることは、これらの企画も回を重ねるにしたがって初心から離れていないか、という点であります。考古学講座（シンポジウム）を事例に挙げれば、どうしても議論は研究調査の先端をいく白熱した甲論乙駁に終始しがちになり、結果的には参加者がひとしく理解しにくい場面があるという声も聞こえております。こうした率直な声には、今後十分耳を傾けてまいりたいと考えております。

将来的には、県内の遺跡を分りやすく紹介したガイドブックのような冊子ができたらと考えています。「子どもたち」を視野にいれた活動を、というご意見もありましたが、ガイドブックのようなものを早くつくって、家族で楽しむコースができるようにしたいですネ。

◆遺跡の発掘調査を体験したい、そのための指導を、という声もありました。ただ、御理解願いたいのは本会は発掘調査を目的とする団体ではないという点であります。県下で現在行なわれている調査は、ほとんどが県・市町村教育委員会の主催であるか、

〇〇〇遺跡調査会（団）が実施しています。したがって個人・団体で発掘調査に参加したいと希望した場合は、当該の役所か調査会（団）にそうした希望をつたえ参加することになるのでしょう。

また、発掘がどこで・いつごろあるか、というような情報は、県・市町村教育委員会に電話などで確認して頂ければ分ります。ただ、最近の発掘現場は、大型重機が縦横に動いていて危険ですから、一般参加の場合でも保険加入などあるかもしれませんので、条件的なことはよく関係者にご相談してみてください。

調査に関する基本的な指導は、現地の指導者からして頂けると思います。

一旦発掘を体験すると、肉体的にはきびしいと思いますが、楽しい未知のとの遭遇に出会う魅力にとりつかれるかもしれませんよ。

◆『遺跡発表会要旨』と『考古論叢・神奈河』を会員に配付を、という声もありましたが、現行の会費（¥3,000）では申し訳ございませんが無理であります。もっともそれに見合うだけ会費の値上げをすれば可能でしょうが、それでは多くの会員の参加を、という本会のコンセプトが崩れてしまうことにもなります。

現行でも会員には上記冊子を値引き販売するなどして会費に見合うような配慮はしておりますので、しばらくは現状の制度を継続していきたいと考えております。

◆ここでお答えできなかった声。あるいは第10号に掲載できなかった声。いずれも貴重なご意見として真摯に受けとめております。

それらのなかには、早急な実現がむずかしいご提言もあれば、私たちが努力・工夫すれば、すぐにもできるようなご提言も含まれています。会員と事務局を結ぶこの「会員の広場」に、これからも投稿をお願いします。



第20回神奈川県遺跡調査・研究発表会開催のお知らせ

第20回神奈川県遺跡調査・研究発表会を下記の通り開催致しますので、お誘いの合せのうえ、ご参加ください。

1 日 時 平成8年9月23日(月) [秋分の日]
10:00~17:00

2 会 場 茅ヶ崎市民文化会館 小ホール
茅ヶ崎市茅ヶ崎1丁目11番1号
(TEL 0467-85-1123)

3 発表内容

開会のあいさつ 10:00

- ① 茅ヶ崎市西久保遺跡群(古代・中世)
富永富士雄・大村浩司・藤井秀男
- ② 小田原市欄干橋町遺跡(近世) 山口 剛志

- ③ 海老名市No.47遺跡(近世) 瀬田哲夫
- ④ 鎌倉市北条小町邸跡遺跡(中世) 馬淵和夫

記念講演 演題『古代文字資料研究の現状
～相模の資料を中心に～』

講師 平川 南国立歴史民俗博物館教授

- ⑤ 横浜市薮根不動原遺跡(奈良・平安時代)
横山太郎
- ⑥ 平塚市南金目沢狭遺跡(古墳時代)
戸田哲也・小林義典・香川達郎
- ⑦ 小田原市羽根尾横穴墓群(古墳時代)
田村良照
- ⑧ 三浦市赤坂遺跡(弥生時代) 中村 勉
- ⑨ 津久井郡馬渡遺跡群No.4遺跡(縄文時代)
河野喜映・池田治
- ⑩ 横須賀市大塚東遺跡(旧石器時代) 北爪一行
- ⑪ 茅ヶ崎市臼久保A遺跡(弥生時代)
松田光太郎・田村裕司・井辺一徳・阿部友寿

閉会のあいさつ 16:30

4 文献交換会について

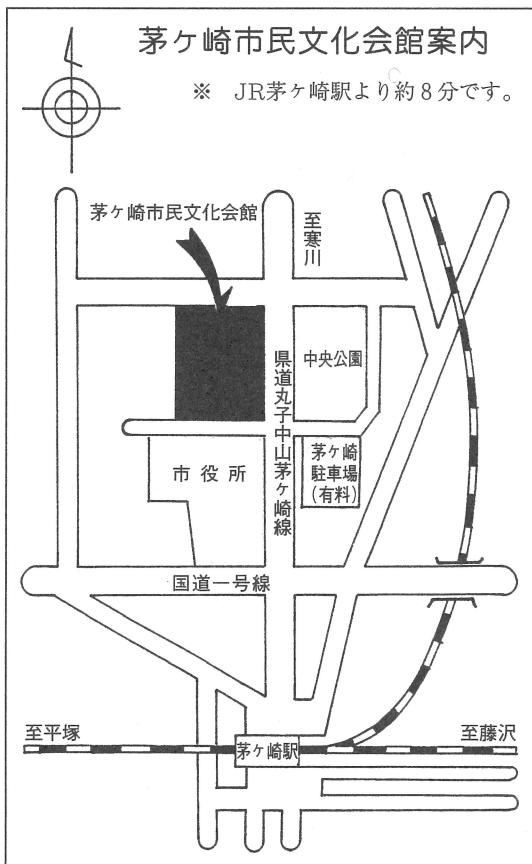
当日文献交換会を行ないます。文献交換を希望される個人・団体は、9月10日までに下記へ申込みください。

◎茅ヶ崎市教育委員会社会教育課

Tel 0467-82-1111(3343) 大村宛て

5 会員懇親会について

当日懇親会を行ないますので、奮って参加下さい。なお、申込みは当日受け付けでお受け致します。



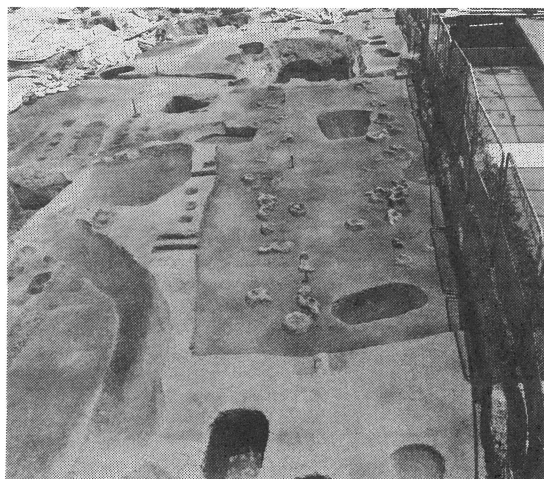
平塚市坪ノ内遺跡検出の鍛冶遺構

坪ノ内遺跡は、平塚市四之宮に所在する推定相模国府域内北東端の遺跡であり、古代相模六社の第四之宮とされる前鳥神社の南側砂丘上および自然堤防上に立地している。過去5回の調査により、古墳時代後期から古代（奈良・平安時代）を主体に弥生時代中期後半から近世までの遺構・遺物が濃密な状況で検出されている。

1995年から始まった6回目の調査でも古代を主体とする遺構・遺物が濃密な状況で検出された。その中で注目されるものとして、8世紀末から9世紀初頭（平安時代初頭）に時期比定できる鍛冶遺構がある。一部調査区外へ展開しているが、東西約12m、南北約5mの長方形の竪穴内に2列に並んだ鍛冶炉（径40cm前後の平面円形）が著しい重複をもって約70基検出された。工場のような官営鍛冶工房跡と呼ばれるものである。遺構内からは、製品・工具の出土はなかったが、^{ふいご}鞴の羽口・^{はぐち}鉄塊系遺物・^{てつかいけい}鍛造剥片・^{たんぞう}鉄滓などの鍛冶関連遺物が多量に出土している。

このような鍛冶遺構は全国的にみても検出例は少なく、北関東以北の国衙・郡家クラスの数遺跡で検出されているにすぎない。神奈川県内はもとより、南関東では初発見であり、相模国府を考えるうえでも興味深い遺構である。

（林原利明）



横浜市歴史博物館と国指定 大塚歳勝土史跡公園を訪ねて

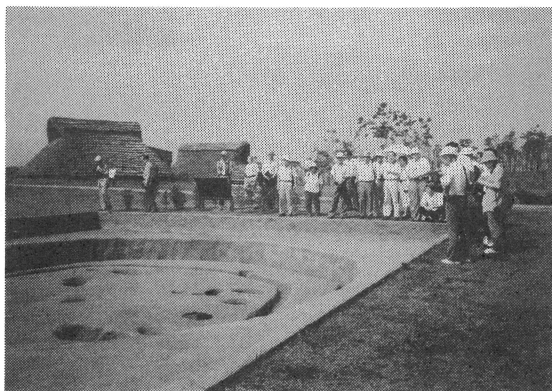
7月6日（土）港北ニュータウンのほぼ中央に建設された横浜市歴史博物館に着いた時は既に学芸員の今井康博さんが、真新しいパネルの前で説明が終わりかけていた頃でした。博物館は最新の展示施設と横浜市内出土という限定付きながら豊富な資料の陳列に感動しました。

遺跡公園は緑豊かな丘の上から早淵川を望む大塚歳勝土遺跡の復元家屋がたたずんでいました。1メートル近く掘り下げられた竪穴住居の中に入るには厚板に足がかりを刻んだだけの一本梯子だから、水を運んだり、子供をだっこしてせまい梯子を利用するのは大変だったでしょうね。私なら一日1回くらいしか屋外に出るのが嫌なんて想像してしまいました。また弥生人はどのような服を着たり、住居内は何を敷いていたのでしょうか。女の人はしなの木やからむしの繊維をとって暮しに必要なものをいろいろ織っていたのでしょうか。住居は薄暗いので、明るい屋外で作業したのかなー。数知れないロマンに尽きぬ興味に胸がどきどきしました。

弥生時代中期の環濠集落で暮した先人の歴史的遺産を大事に後の人に引き継いでゆくことが、改めて大切なことが分りました。

暑いさ中説明して下さいました関係者のみなさんに感謝申し上げます。

（千葉美代子）



情報案内

特別展

「甦る鎌倉－遺跡発掘と伝統の名品」根津美術館
8/10～9/29 ㊥ 月（除休）、休翌火

「縄文文化誕生」横浜市歴史博物館

10/5～11/24 ㊥ 月、休翌火

「久野諏訪の原古墳群2号古墳出土遺物」小田原市郷土文化館
～12/末

見学会

ふるさと横浜探検「北条氏の跡をたどる」横浜市歴史博物館（要申込、有料） 9/25（水）

講座等

博物館教室「三浦半島の考古学②」横須賀市人文博物館（要申込）1/18～2/1（土）14:30
かなが県民アカデミー「考古学を学ぶ〈むら〉を視る」 ① 10/4、② 10/9、③ 10/17、④ 10/24、⑤ 10/31、⑥ 11/7、⑦ 11/14、⑧ 11/21、⑨ 11/28 神奈川県立埋蔵文化財センター（要申込、有料）9/20まで

講演会

西川修一「耶馬台国時代のかながわ」伊勢原市民文化会館（要申込） 9/28（土）13:30
諏訪問仲「遺跡が語る伊勢原大江山麓に眠る文化財」上記に同じ

発表会

三浦半島地区遺跡調査発表会 横須賀市人文博物館 10/27（日）13:00

シンポジウム

鎌倉市中央公民館にて 11/30（土）12/1（日）
「やぐら」の討論会が行われる予定です。

〈住所等変更〉

天野（渡辺）芳子

岡田威夫

佐藤明生

関根輝雄

武田賢一

田村良照

内藤和美

野崎欽五

〈新入会員〉

浅野哲哉

古庄浩明

依田亮一

〈退会〉

秋元 勇

高村敏則

〈住所不明〉

宇野秀樹

内田千義

湯川光夫

小林 進

脇達 朗

佐藤 弘

岡田義樹

編集後記

※今年の夏はO-157の食中毒、何で今年に限って大発生？

そういえば、最近異変が多い。昆虫大発生、雨不足地震、火山活動 もう一度身のまわりを振り返ろう。

※10号で巻頭の寺田兼方先生の「夏実の人間像を求めて」で、「会員数500近く」のところを「会員数400名近く」と誤ってしまいました。謹んで寺田先生ならびに会員におわびいたします。

会 員 名 簿

（1996年7月22日現在）

〈訂正〉

頁	行	誤	正
2	21	新井秀規	荒井秀規
5	5	奥村泰史	奥村恭史
6	1	禿仁 志	禿 仁志
6	11	川口徳治朗 松が丘1-13-8	2-13-8
6	19	菅野和郎	菅野和郎
14	31	水澤裕子	

大田区南糀台 大田区西糀谷

〈追加〉 名簿記載もれ等

岡本 勇
金子富貴男

福島 薫

考古かながわ 第11号

発行 神奈川県考古学会
発行日 1996年9月1日
編集者 明石 新、大塚眞弘、後藤喜八郎
白石浩之、松尾宣方、
事務局 東海大学文学部考古学研究室内
〒259-12 平塚市北金目1117
郵便振替 00240-9-71208
神奈川県考古学会
印刷所 有限会社長谷川印刷